

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3492100031
法人名	社会福祉法人 口和福祉会
事業所名	グループホーム口和
所在地 (電話番号)	広島県庄原市口和町永田413 (電 話) 0824-89-2700

評価機関名	(社福)広島県社会福祉協議会		
所在地	広島県広島市南区比治山本町12-2		
訪問調査日	平成21年2月17日	評価確定日	平成21年3月26日

【情報提供票より】(平成21年1月31日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成19年3月1日		
ユニット数	1 ユニット	9人	
職員数	15 人	常勤 3人, 非常勤 12人, 常勤換算 6.0人	

(2)建物概要

建物形態	併設 / 単独	新築 / 改築
建物構造	鉄骨造り	地上1階建1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	26,000 円		その他の経費(月額)	実費
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	100,000円		有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	- 円	昼食	- 円
	夕食	- 円	おやつ	- 円
	又は1日 1,380円			

(4)利用者の概要(1月31日現在)

利用者人数		9 人	男性	2 人	女性	7 人
要介護1		2 人		要介護2	2 人	
要介護3		4 人		要介護4	1 人	
要介護5		0 人		要支援2	0 人	
年齢	平均	86 歳	最低	77 歳	最高	97 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	庄原赤十字病院, 庄原市口和歯科診療所
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム口和は、庄原市口和町の中心部にある「口和福祉村」の一角にあります。福祉村の中には、法人の運営する特別養護老人ホームやケアハウス、自立援助ホームや市社会福祉協議会の地域センター、診療所があり、地域の福祉拠点ともいえる場所です。近くには郵便局や商店街がありますが、すぐに田んぼが続き、便利さと静かさの両方が味わえる恵まれた環境の中にあります。ホームでは、掃除や散歩、食事作り、畑仕事など、利用者が持つ力を存分に発揮していただける場面が多く工夫されており、職員は下準備やお膳立てといった黒子の役割をとりながら、利用者が生き生きと生活されるよう支援しておられます。法人の方針により、介護未経験者には介護技術の基礎を身に付ける研修に参加する機会を設けるなど、人材養成の体制も充実しています。畑仕事やミニウサギの飼育など、これまでの生活に近い環境を職員と利用者が一緒になって作り、穏やかな日々を送っておられます。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 今回は1回目の受審であり、該当しません。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の評価は、管理者と計画策定担当者が中心となっており、全職員に聞き取りを行いながら自己評価をまとめられました。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は、利用者代表、家族代表、民生委員、行政の参加を得て定期的に開催されています。時には、ホームで提供している食事を会議のメンバーに食べてもらうなど、ホームの取り組みを知っていただく機会としても活用されています。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族がホームを訪ねて来た際に、意見や不安に思っていることなどを聞き取るようにしておられます。また、口頭で日々の暮らしぶりを伝えたり、生活の状況をビデオで紹介する等をしておられます。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の自治振興会が行う盆踊り大会、隣接の施設の夏祭り、地元の「モーモー祭」や「健康福祉祭」など、積極的に出かけて、地域の人たちと交流する機会を作っておられます。毎年開催される町内駅伝大会に職員が参加した年には、利用者も沿道で応援するなど、地域での行事を楽しみながら、交流を深めておられます。

2. 評価結果（詳細）

（ ☐ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は、「利用者本位」「自立支援に向けた援助」「安心して生活できる場所づくり」「積極的な地域参加」「利用者は家族の一員」の5つの柱で、開所時に管理者、職員で作り上げられています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	言葉としてだけでなく、散歩や買い物などの実践を通じて、理念を共有、実現しようとしておられます。	○	5つある理念の中からいくつかを重点として取り上げ、具体的な行事やケアに結びつけていくことで、理念が完成されるよう取り組まれることを期待します。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームは、特別養護老人ホームやケアハウス、市社会福祉協議会の地域センター等がある「口和福祉村」の中にあります。地域住民からは旬の野菜、JA婦人部からは半夏生(はんげしょう)のお餅の差し入れなどがあります。また、隔年で開催される「モーモー祭」や「健康福祉祭」へ出かけたり、小学生と一緒にアップルパイを作るなど盛んに地域の人々と交流をしておられます。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	初めての経験で不慣れなこともあり、管理者と計画作成担当者で自己評価を作成した後に、職員の気付きを聞き取ってまとめられています。なお、今後、自己評価で明らかになった課題を整理し、改善に取り組むこととされています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、利用者代表、家族代表、地域住民代表、行政等から構成されたメンバーで運営されています。前回の会議は、家族会と合同開催し、ホームで提供している食事を一緒に味わうという企画で開かれていました。	○	今後は、警察、消防署など、地元の関係機関にも加わっていただき、地元の情報をもらいながら、ホームのことを知る人が増えるよう、取り組まれることを期待します。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現在は、報告書類の提出があれば出向くという関わりに留まっています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会が頻繁にあるため、機会を捉えて口頭で日々の暮らしぶりを伝えたり、生活の状況をビデオで紹介する等をおられます。作成中のグループホームだよりで、さらに利用者の暮らしぶりをきめ細かく伝えることができますようになります。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会が発足しています。運営推進会議と合同開催した時は、試食会を行っておられます。また、家族会に併せて相談会を開くなど、家族が相談しやすい状況を作り出しておられます。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設後2年が経過しようとしていますが、人員配置に関しての配慮もあり、これまでに異動はほとんどありません。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回ホーム全体で研修会を持つようにしており、近々調理研修会の開催を予定しています。 また、介護未経験者の職員が多く採用されていますが、法人がホームヘルパー講習会の受講を奨励しており、全職員が介護技術の基礎を身につけています。なお、経費は法人がバックアップしています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	合併により市となりましたが、市の面積が広く、移動距離の長さは交流の際の課題となっています。 しかし、管理者がこれまでに培った人脈で県内のグループホームから情報を得たり、グループホーム協会への加入を検討するなど、交流の機会を作り出す取り組みが行われつつあります。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前には、ホームの見学をしていただくようにしておられます。居室の様子や他の利用者が食事の準備をする様子を見学したり、一緒に食事を摂るなど、徐々にホームの雰囲気に慣れていただきながら、入居できるように工夫しておられます。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に新聞を読んだり、地域の人からいただいた野菜の食べ方を教わるなど、コミュニケーションを大切にしておられます。体調を崩して休んでいる職員を心配する利用者もあり、職員も利用者へ支えられながら毎日を過ごしておられます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の言葉を大切に聴き、利用者が気になっていることがあれば一緒に考えるように努めておられます。「田んぼが気になる」とつぶやいた利用者には、散歩を兼ねて職員と一緒に見に行ったり、お墓参りや家を見に行くなど、できる限り希望が叶えられるよう配慮しておられます。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族からの聞き取りをもとに、計画作成担当者が長期目標、サービスプランを作成し、ケアカンファレンスでの協議・調整を行うなどして、利用者本位のケアプランづくりに取り組まれています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は定期的見直しを行うほか、本人を取り巻く状況の変化やADL低下などがあった時に見直ししておられます。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームの中に、多目的に利用できる部屋があります。この部屋は、数年前に大雨が降った時に地域住民の緊急避難場所・宿泊場所として提供されました。また、現在は託児所として利用され、利用者も子どもの面倒を見るなど、本人の持っている力を大いに発揮できる機会となっています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の要望に沿って、長年のかかりつけ医師・診療所との連携を保っておられます。 また、協力病院からの往診や休日対応の支援も得ながら、適切な医療が受けられるようにしておられます。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期・重度化の対応が必要になった場合には、家族やかかりつけ医師との話し合いで、今後の方針を決定するようにされています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	着替え、入浴、トイレといった場面では、特にプライバシーに配慮して対応するよう心がけておられます。 その一方で、あまり他人行儀になり過ぎないよう、また失礼な言い方にならないように、適度な距離を保ちながら関わりを工夫されています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかに日課は決まっていますが、その中でも利用者がやりたいことをしていただくように支援されています。畑仕事や買い物、料理などを利用者一人ひとりのペースで行っておられます。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者が力を発揮できるように準備し、利用者が主役になって下さり、味付け、盛りつけ、配膳、洗い物などを行うように支援しております。日々の食事のほとんどは、利用者の手によって作られています。訪問日には、いなり寿司の寿司飯づくり、具の準備、味付け、詰める作業もほとんど利用者が行っておられました。多めに作ったいなり寿司は、お代わりの希望を聞いて食べていただくなど、食事を楽しんでおられる風景が見られました。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	3回/週のペースで入浴日を決めておられますが、本人の希望によっては、毎日入浴されるなどの対応もされています。特に、夏場に畑仕事をされた後には、希望により毎日入浴できるように計画されています。冬場は、体が冷えないよう、午後から夕方入浴となっています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎朝の掃除は、できる利用者3～4人が、職員と一緒にモップかけなどを行っておられます。畑に蒔く種は、利用者全員に希望を聞き、年々作る種類を増やしてこられました。昨年収穫した黒大豆は、「来年蒔いて、枝豆として収穫して食べようか」という話も飛び出すなど、利用者にとっても職員にとっても楽しみが増えつつあります。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩が日課のひとつになっています。夏場はほとんど毎日のように、ほぼ全員が出かけられています。冬場は、併設の特別養護老人ホームやケアハウスに入居している知り合いの所に出かけるなど、目的を持った外出を支援しておられます。温かくなったら、散歩コースにある郵便局の近くの花壇に花を植える相談をしに行く計画もあります。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害を職員が理解しており、日中は、玄関も居室も施錠はされていません。なお、夜間(19:00～7:00の間)は、建物の外にあるフェンスに施錠を行います。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	隣接する特別養護老人ホーム、ケアハウスとの合同訓練は、年2回行っておられます。今後は、地元の消防団との消防訓練を行うことを検討しておられます。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は、個別に記録が行われています。 献立は、冷蔵庫の食材や買い物先の品物を見て決めています。隣接の施設に配置されている栄養士から献立についての助言をもらうなどの配慮がされています。 水分は自力で摂取できる利用者が多く、現在のところ、特に記録は取るようにしておられません。	○	食事摂取状況を個人別かつ時系列に把握できれば、健康状態の把握がより正確になり、変化への対応や対応策の検討が的確に行えるようになると思いますので、業務日誌と個人支援記録に記載されている項目を整理することを提案します。 また、現在のところ、水分摂取量の記録は行われていませんが、利用者の状態に応じて把握することも検討されることを期待します。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じさせる花が生けられたり、窓から差し込む光を調整したりして、明るく居心地のよい共用空間がつくられています。 中庭には、大きく成長したミニうさぎが2羽飼われており、利用者の心を和ませています。 季節感をより際立たせるために、普段はシンプルな飾りつけを心がけておられます。散歩に出かけた時などには、野の花をつんで生け花にすることもあります。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇やテレビ、アルバム、写真立て、家族の集合写真など、利用者になじみのあるものがたくさん持ち込まれ、一人ひとり個性的な居室が工夫されています。		

介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム口和

評価年月日 平成21 年 1 月 22 日

記入年月日 平成21年 1 月 29 日

※この基準に基づき、別紙の実施方法
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 職 管理者 氏名 田端 隆士

広島県福祉保健部社会福祉局介護保険指導室

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	-----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

I 理念の基づく運営

1 理念の共有

1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	作成している		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念の実践に向けて取り組んでいる。	○	取り組んでいるが職員全体に浸透していないので今後全体で共有していきたい
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	理念を地域の人々に理解をしてもらえるような取り組みをおこなっていない	○	地域に出て行くことが少なく今後は買い物などを通じて取り組んでいきたい

2 地域との支えあい

4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	日常적으로つきあいができるようなにはできていない	○	気軽に立ち寄ってもらえるように努めていきたい
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	夏に行われる盆踊り大会などに参加している	○	盆踊りでだけではなく自治会などの地域交流ができるよう努めていきたい

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	取り組んでいない	○	話す機会がなく取り組んでいない
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	取り組んでいない	○	外部評価を実施するのは今回が初めてで今回の評価を受けて改善に取り組んでいきたい
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	実施しているが意見をサービス向上に活かされていない	○	運営推進会議で話あったことを活かしていきたい
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	行き来する機会がなく取り組んでいない	○	市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいけるように努めていきたい
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	研修を行う機会がなく取り組みは行っていない	○	今後は研修ができるよう環境を整えていきたい
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	毎月の職員会議のとき少しずつ研修を行っている	○	今後も防止に努め学習していきたい

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

4 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	おこなっている。	○	もっとわかりやすく説明が出来るように努めていきたい
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	利用者の苦情、不満を抽出してサービスに反映出来る様に努めている	○	まだ十分にはできていないので色々な機会を設けて取り組んでいきたい
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	面会時、電話などで個々に報告している。	○	今後も色々な形で家族等と連絡を取り合っていきたい
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情、不満を抽出してサービスに反映出来る様に努めている	○	まだ十分にはできていないので色々な機会を設けて取り組んでいきたい
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員会議などで定期的に意見を聞く場を設けている。	○	今後も意見、提案を聞く機会を設けてより良いサービスが出来るように努めていきたい
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		○	離職者はまだいないが今後そのような場合には利用者に配慮した取組を行うようにしていきたい
5 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	施設内研修や、施設外研修などに積極的に参加しているほか働きながらトレーニングしている	○	今後も研修等を行っていきたい
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている。	交流する機会がなく行っていない	○	そのような交流があれば参加していきたい
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	工夫や環境作りはしていないが職員からの相談苦情などは随時聞くようにしている	○	工夫や環境作りなどは行っていないがそれぞれ声を掛け合って業務に取り組んでいる
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	職員一人ひとり役割があり向上心を持って働いてもらっています	○	研修などを行って向上心を持って働けるように努めていきたい
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	電話での相談と見学に来られたときに相談を聞く機会をつくっている	○	相談業務を充実出来る様に努めていきたい

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	併設の施設から入ってこられることが多くあり 直接相談を受けた事がない	○	今後そのような機会があると思うのでその時はよく聞いて受け止めるように努めていきたい
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	担当の職員と話し合い支援している	○	今後も継続していき見極める力をつけていきたい
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならな馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	施設見学をしてもらっている		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に楽しんだり時には悲しんだり、利用者の気持ちに添えるような関係を築いている	○	これからも一緒に過ごしていく事で、本人から学んだり、支えあう関係を築いていけるよう努めていきたい
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族とのコミュニケーションを大事にして家族と共に利用者本人を支えあうよう努めている	○	今後も変わらないよう努めていきたい
29	○本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。		○	利用者皆様の家族が面会など施設に関わっていただけるよう努力していきたい

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	散歩、ドライブなどを行い取り組んでいる	○	今後も継続していく
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	職員が間接的に入り利用者同士仲良くなれるよう援助を行っている。	○	楽しく関われるようこれからも努めていきたい
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	併設施設への入所などをされても利用者への声掛けなどを行い関わりをもっている。		今後も継続していく
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。		○	思いおもい生活されています。希望、意向については十分にできていない、今後に取り組んでいきたい
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人、家族からの聞き取り、ケアマネから状況を聞き取り行っている。	○	本人の生活暦、暮らし方など大事にして居心地の良い生活をしていただけるよう努めていきたい
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	一人ひとりの暮らしを記録して職員で情報を共有出来る様に努めている	○	

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	-----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人が必要としているサービスを見極め本人、家族、関係者からそれぞれ話を聞いて介護計画を作成している	○	
37	○状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	状況が変化した場合、現状に応じた計画を作成している		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日のケース記録に記入し、情報を共有しながら実践している。		

3 多機能性を活かした柔軟な支援

39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人や家族の要望に応じてその都度対応している		
----	--	------------------------	--	--

4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	運営推進会議のときに意見などをいただいている	○	もっと参加していただけるよう、協力できるように努めていきたい
----	---	------------------------	---	--------------------------------

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	機会がない為行っていない	○	機会があれば行っていきたい
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	機会がないので行っていきたい		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	協力病院があるが、本人または家族が希望する医療機関受診も出来るよう支援している。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	専門医の受診支援を行っている		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	併設の特養看護師と相談を行いながら利用者の健康管理などを行っている		
46	○早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	医療機関との連絡のほかには面会などを行っている		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	終末期による支援は行っていない 体調変化などあった場合は家族、かかりつけ医と話し合い方針を決めている		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	終末期による支援などは行っていない		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。	情報交換などを行い本人が早くなれてもらえるよう努めている		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	ケース記録などは保管してあり個人情報など取り扱いには気をつけている	○	言葉掛けや対応などにはきおつけている。今後も良いサービスができるように取り組んでいきたい
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	本人による意思決定を尊重するように職員にも指導している。本人にわかりやすく説明するように努めている	○	利用者が思いや希望を言い表せるよう取り組んでいる。今後も継続して関わって行きたい
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	思い思いに過ごしていただいているが入浴日、時間は職員が決めている	○	利用者のペースに応じた生活を心かけている。今後も希望に添った生活を支援していきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援

53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	定期的に散髪などおこなっている		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	現在実施しているそれぞれそのときに役割を持ってもらい出来る力を使ってもらっています。	○	利用者の皆さん楽しそうにそれぞれのお仕事をされています。これからも継続していきたいです
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	状況に応じて支援している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。		○	排泄時トイレに行ってもらようよう支援している。失敗もあるがその都度対応している。今後は利用者一人ひとりの力にあわせ気持ちよく排泄できるよう支援していきたい
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	曜日や時間帯を職員が決めて入浴をしていただいている。		できるだけ利用者の希望に添った入浴を心がけていきたいです
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	気持ちよく休んでいただけるよう支援している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援

59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	家事、散歩、レクリエーションなど日々楽しんで過ごせるように支援を行っている	○	一人ひとりの出来る力を見つけ出し楽しみごとを増やしていきたい
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金はすべて職員が預かっている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩などを行い屋外に出ている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	家族との外出時、外泊時に出かけられたり、車に乗って買い物に出かけるように支援している。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	手紙の支援は行っていない。	○	現在、携帯電話を持ち込まれてる方がおられますその方については支援しています。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	訪問時心地よく過ごしていただけるようお茶などを出しています。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	---------------------	----------------------------------

(4) 安心と安全を支える支援

65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束防止委員会を発足しており研修などケアに取り組んでいる		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中玄関、居室には鍵をかけずに利用者の皆さんは生活されています		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	定期的に人数確認を行うようにしている		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	その時々に応じて対応している		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	施設内研修、火災訓練などで事故防止に取り組んでいる	○	今後も継続して行っていきたい
70	○急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期期に行っている。	施設内研修行っているが、定期的に訓練はしていない	○	定期的に行えるように取り組んでいきたい

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	施設内では訓練を行っているが、地域の人達と一緒に訓練などは行っていない	○	機会があればぜひ行っていきたい
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	契約時などリスクについて説明している	○	家族とも話し合うような機会を設けて利用者を支えあう取り組みを行っていきたい
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	利用者の体調変化や、異常が発見されたときは、速やかに協力医療機関に受診を行い情報を共有し家族連絡を行っている		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服用の支援と症状の変化の確認に努めている		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	散歩、体操などを行い体を動かすよう取り組んでいる		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食時後、口腔清拭を行っている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	おやつ、食事以外でそれぞれ好きなお茶などを出している	○	その人その人で飲む量が違うので確保できているのか把握できていない。記録も十分できていないので徹底していくよう努めていきたい
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。 (インフルエンザ，疥癬，肝炎，MRSA，ノロウィルス等)	感染症対策委員を立ち上げており感染症に対する予防、対策に取り組んでいる		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の衛生管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	安全で、新鮮な食材を使用するように取り組んでおり、調理器具などの消毒を行っている		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。	特に工夫などは行っていないが玄関の段差をなくしました		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等）は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビングは利用者の皆さんがゆっくりとくつろげるような場を作り居室は利用者が思いおもいに休まれるようにしている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有空間にはソファを置き利用者同士で過ごせるようにしてあります。廊下の間には椅子を置いて休めるようにしてある		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には利用者の愛用していたもの、思い出のあるものを持ってきていただいている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	定期的な空気の入替え、換気をおこなっている		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下、浴室、トイレには手摺りを設置している		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	ゆっくりとわかりやすい言葉がけをするよう職員心がけており利用者が安心して暮らせるようにしている	○	わかりやすい言葉がけをおこない利用者が安心して暮らせるように取り組んでいきたい
87	○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ホーム裏には畑、花壇を作り利用者が楽しんで活動できるようにしてあります	○	今後も楽しい活動が出来る様に努めていきたい